

鳥取砂丘西側整備構想

2004年3月 策定

2020年3月 改訂

鳥 取 市

目次：

| | |
|--|----|
| 序 鳥取砂丘西側整備構想の改訂にあたって | 1 |
| 第1節 現況と課題..... | 2 |
| 第2節 将来整備の考え方..... | 4 |
| 1 鳥取砂丘未来会議のゾーン設定 | 4 |
| 2 本構想の位置付け | 6 |
| 3 砂丘東西の整備の方向性 | 6 |
| 4 砂丘西側の整備コンセプト | 6 |
| 第3節 砂丘西側の来訪ターゲットと機能の配置 | 8 |
| 1 砂丘西側の来訪ターゲットの設定 | 8 |
| 2 各ゾーンの機能配置 | 8 |
| 第4節 砂丘全体の周遊性の向上..... | 12 |
| 第5節 砂丘西側の色彩イメージ..... | 14 |
| 結 | 15 |
| 鳥取砂丘未来会議西側ワーキンググループ 構成メンバー（2019年） | 16 |
| 鳥取砂丘未来会議上質化ワーキンググループ 構成メンバー（2019年） | 17 |

序 鳥取砂丘西側整備構想の改訂にあたって

かつて、本市の鳥取砂丘といえば、砂丘西側、いわゆる浜坂砂丘のことでした。砂丘西側は、その眺望が古くから多くの文化人を魅了し、多くの歌碑がその足跡を今日に伝えています。

また、砂丘西側は、1960年代から70年代にかけて観光開発が進み、本市も国民宿舎砂丘荘やサイクリングターミナル砂丘の家、柳茶屋キャンプ場の経営を行い、多くの観光客に利用していただけてきました。かつての砂丘西側は多くの観光施設が立ち並ぶ日本有数の観光地でした。

しかし、70年代に起こったオイルショックによる景気低迷で観光消費が落ち込み、砂丘観光も衰退の一途を辿りました。

2004年11月、本市は1市8町村の市町村合併で、砂丘東西の一体管理が可能となりました。合併以降、主に砂丘東側において、2009年に因幡の祭典、2012年に砂の美術館の開館、2018年に山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンターの開館などを進めてきました。

一方、砂丘西側では、2007年に旧砂丘荘跡地へのホテルの進出が計画されましたが、サブプライムローン問題に端を発する世界同時不況のあおりを受けて中止となりました。また、1997年に砂丘博物館構想が、2015年には県立美術館構想の候補地選定が鳥取県において進められましたが、いずれも実現には至りませんでした。

鳥取砂丘西側整備構想は、市町村合併を間近に控えた2004年3月に、産学官民の砂丘関係者で組織する鳥取砂丘西側整備検討チームで検討し策定したものです。しかし、策定後15年を経て、今日の時勢に合った改訂の必要が生じていました。

2018年11月、鳥取砂丘ビジターセンターの開館を契機に、鳥取砂丘の保全と利活用の両立を進める鳥取砂丘再生会議が鳥取砂丘未来会議に改編され、砂丘西側のあり方についての議論が始まりました。

本構想は、同会議の2つのワーキンググループでの議論を踏まえ、さきの鳥取砂丘西側整備構想を改訂したものです。

今後も様々な情勢の変化が見込まれる中、本構想が次なる10年においても、新たな鳥取砂丘の価値を生み出してゆく指針となることを願っています。

鳥取市長 深澤 義彦

第1節 現況と課題

鳥取砂丘は、地形の起伏の大きさ、風紋、砂簾、スリバチ等の砂丘地形の豊富さで知られ、年間100万人以上の利用者が訪れる山陰海岸国立公園随一の利用拠点です。1955年の国の天然記念物指定に始まり、1963年にはその一部が山陰海岸国立公園の特別保護地区に指定、2010年には世界ジオパークネットワークに加盟認定されるなど、その貴重な自然環境は古くから多くの市民・県民の手によって守られ、今日に受け継がれています。

また、2012年には儂い砂の芸術である砂像を世界初の屋内型展示施設で鑑賞できる鳥取砂丘砂の美術館が開館し、さらに2018年には山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンターが開館するなど、来訪者の受け入れ態勢の整備は進んでいます。



柳茶屋キャンプ場

しかし、砂丘西側にはこどもの国、キャンプ場、ゴルフ場、宿泊施設などが立地し、個々の施設へ行くという目的を持った人が訪れるエリアとなっただけのもの、地形の高低差が大きく、施設同士や駐車場も分散しているため徒歩での移動は容易ではありません。

また、砂丘東西を結ぶ公共交通がないことなどから、砂丘東側の賑わいが砂丘西側まで波及せず、施設は老朽化し、未利用施設や未活用地も多くみられています。

これらの課題に対応するため、鳥取砂丘未来会議は、2019年2月に砂丘西側のあり方について議論する西側ワーキンググループを設置し、1年間にわたって調査と議論を行いました。

一方、国において、2020年における訪日外国人旅行者数を4000万人に、国立公園来訪外国人利用者数を1000万人にする方針が打ち出され、その実現に向け2019年に国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業が創設されました。鳥取砂丘未来会議ではこの事業を活用し、西側ワーキンググループでの議論を踏まえ、2019年8月に上質化ワーキンググループも設置し、砂丘全体の滞在環境が上質なものとなるよう、景観改善や看板サイン類の多言語対応など、来訪者の利便向上につながる再整備に取り組むこととしました。



統一感がない看板・サイン類

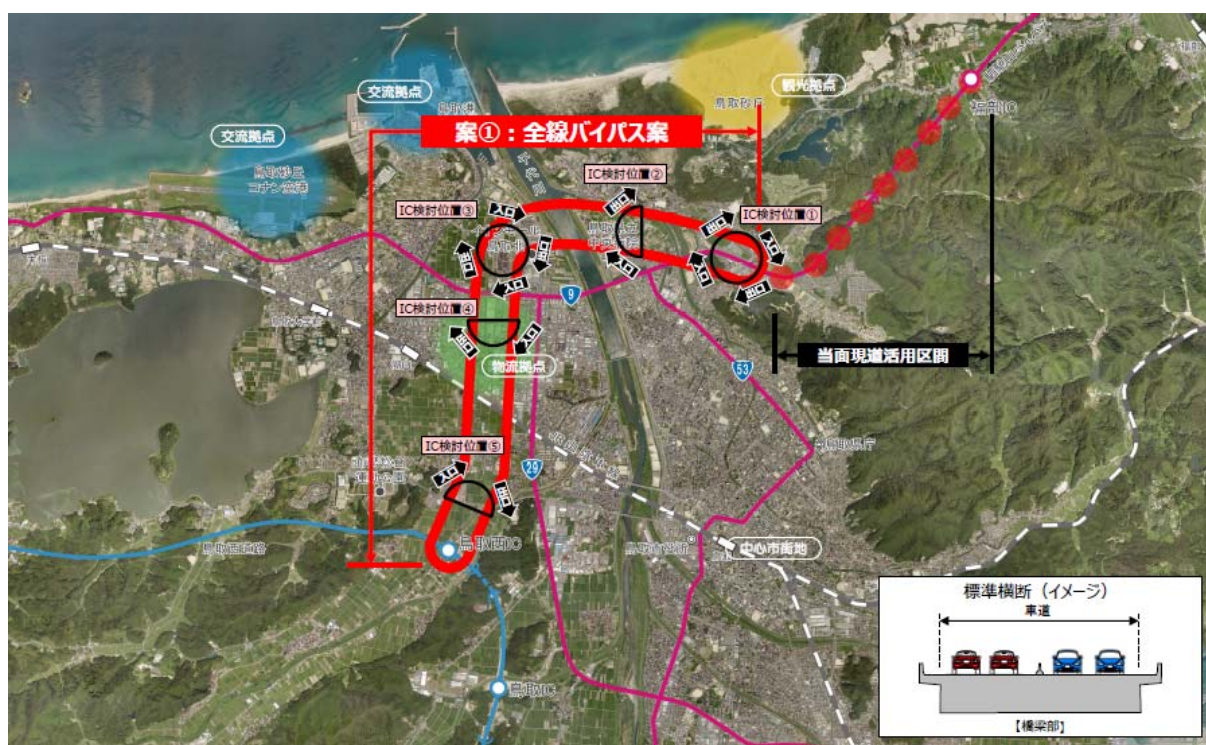
本市もその一環として、長期にわたり活用が進まなかった砂丘西側の市有地について、鳥取砂丘に新たな賑わいを創出すべく、民間事業者の自由な発想により活用案を募集する公募型プロポーザルを2019年10月に実施。鳥取砂丘に関係の深い行政機関の職員、有識者で組織する審査委員会の審査を経て、最も評価の高かったリゾートホテルに関する提案事業者を選考・決定しました。

砂丘西側は砂丘本来の自然や風景の魅力が残っているエリアでもあり、潜在的な活用ポテンシャルは依然として高いと考えられます。

さらに、2019年12月には山陰近畿自動車道の鳥取～福部間の高速道路のルート案が、国土交通省中国地方整備局の審議会で決定しました。今後、鳥取西インターから北上、鳥取砂丘コナン空港や賀露港に近接して山陰近畿自動車道に接続するこの案が実現すれば、鳥取砂丘へのアクセスが高まるものと期待されます。

これらを背景に、リゾートホテルの開業や西側既存施設の再整備など、将来の高速道路整備によるアクセス向上の見通しも踏まえて、今後は砂丘西側の目指すべき方向性を明確にしたうえで各施設の機能の再編、歩行者動線を検討し、快適に歩ける空間、休憩場所の設置を計画する必要があります。

合わせて、動線上から眺められる景観に悪影響を及ぼす様々な要素の改善や修景に取り組むための指針も求められています。



山陰近畿道自動車道 鳥取～福部ルート案

第2節 将来整備の考え方

1 鳥取砂丘未来会議のゾーン設定

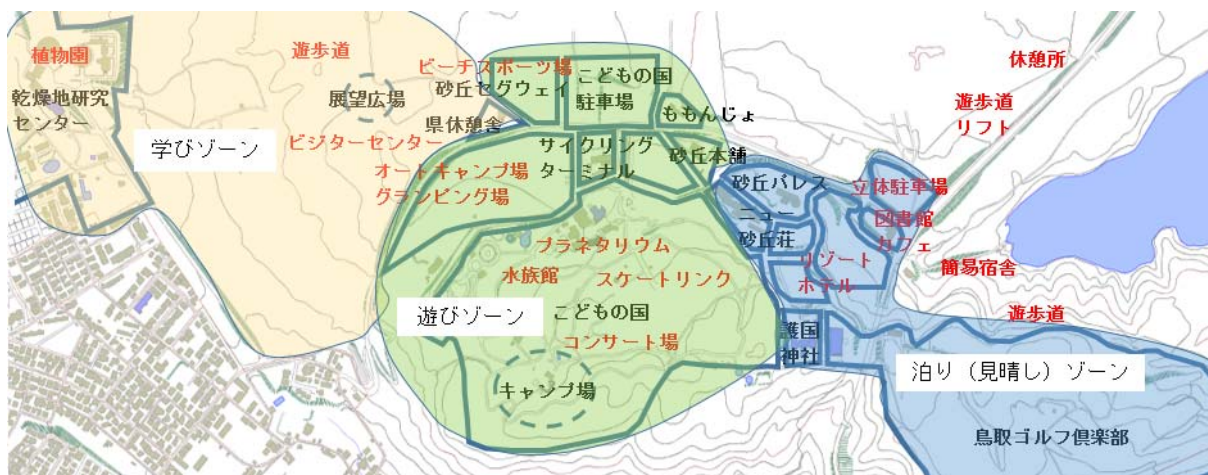
鳥取砂丘未来会議では、西側ワーキンググループ（2019年2月～8月 計4回開催）と上質化ワーキンググループ（2019年9月～12月 計4回開催）で、次のゾーンが設定されました。

（1）西側ワーキンググループのゾーン設定

砂丘西側が目指す方向性を「誰もが、学び、遊び、泊りを通して鳥取砂丘を深く知ることができる滞在型観光エリアへの躍進」とし、次の取り組みが設定されました。

- ① 優れた景観や静かで落ち着いた環境をこわさない配慮ある行動
- ② 自然景観の質の向上
- ③ 多様な来訪者に対応できる基盤整備とプログラムの開発
- ④ 鳥取砂丘の他のエリアとの連携による相互補完と相乗効果の促進
- ⑤ 滞在型観光が生む高い経済波及効果を意識した広域観光のけん引

また、現在の砂丘西側の利用状況に、今後新たに必要とされる機能を加え、次の3つのゾーンも設定されました。



砂丘西側ゾーン設定図（黒字は現在の利用状況、赤字は提案された新たな機能）

おおよその範囲として

学びゾーン 鳥取大学乾燥地研究センターから鳥取県休憩舎周辺までを含むゾーン

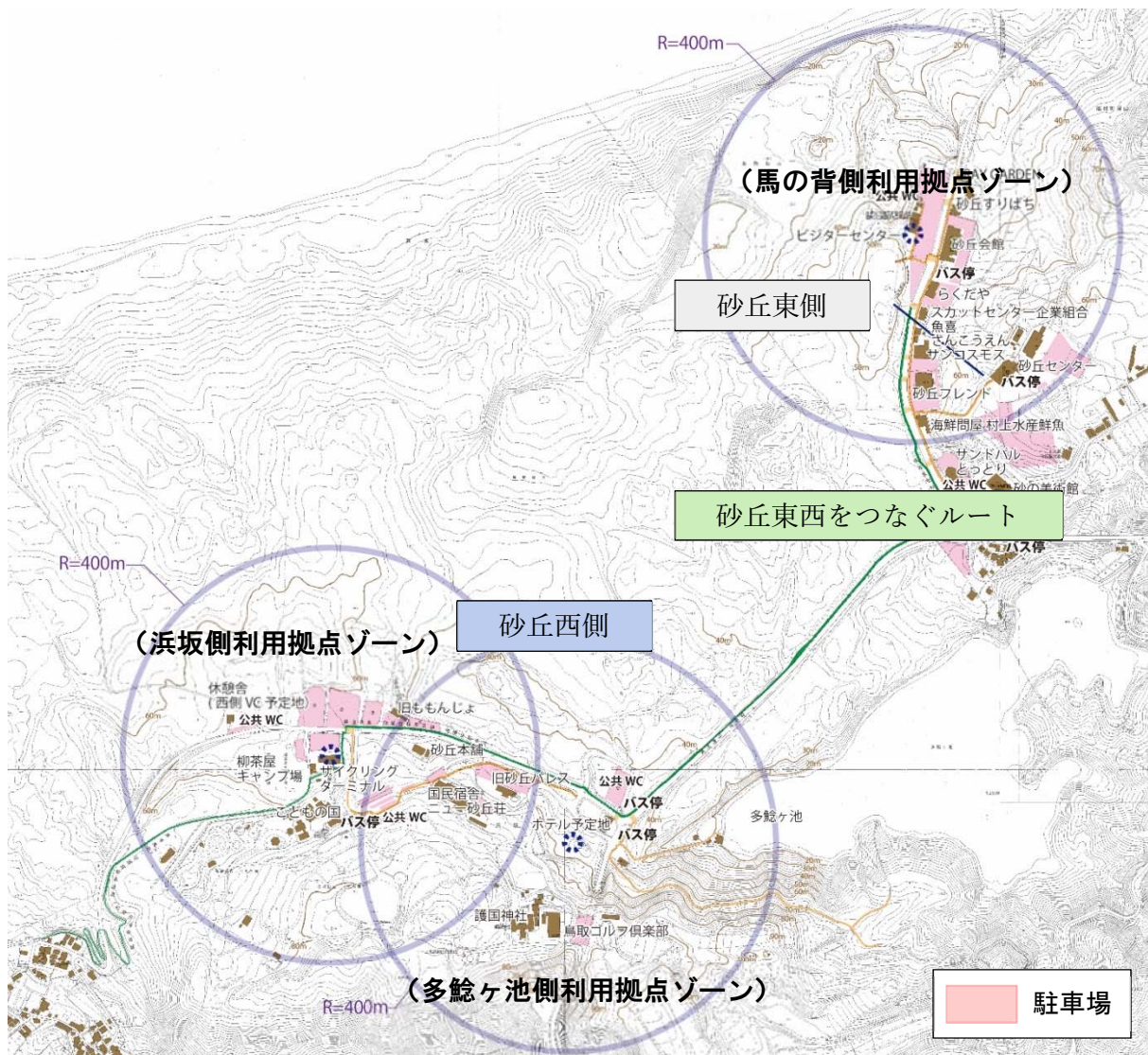
遊びゾーン こどもの国、サイクリングターミナルや柳茶屋キャンプ場などを含むゾーン

泊りゾーン 市の誘致ホテル等と国民宿舎、周辺施設、多鯨ヶ池に隣接する自然環境など（見晴し）を含むゾーン

(2) 上質化ワーキンググループのゾーン設定

砂丘東側はおおよそ直径 800m・高低差約 20m の範囲に、主要施設群がほぼ収まり、かつ標高差のある商業施設では砂丘地との間でリフトの運行が行なわれています。これに対して、砂丘西側は施設群の分布範囲が直径 1200m・高低差約 40m に置かれています。

このため、都市空間における快適歩行限界距離の尺度として一般に認識されている 400m を、東西各エリアの歩行可能圏の半径の基準値として適用し、砂丘東側に 1 か所、砂丘西側に 2 か所の利用のための主要拠点を設定し、さきの西側ワーキンググループでのゾーン設定との関係性を踏まえ、砂丘東西で次の 3 つのゾーンが設定されました。



| | |
|------|--------------------------------------|
| 砂丘西側 | (浜坂側利用拠点ゾーン) 「学びゾーン」と「遊びゾーン」を統合 |
| 砂丘西側 | (多鯨ヶ池側利用拠点ゾーン) 「泊りゾーン」と「遊びゾーン」の一部を統合 |
| 砂丘東側 | (馬の背側利用拠点ゾーン) |

2 本構想の位置付け

本構想と鳥取砂丘に関するランドデザイン、各種の計画との位置づけは次のとおりです。



以下、省略。

3 砂丘東西の整備の方向性

鳥取砂丘未来会議のゾーン設定を踏まえるとともに、本構想に関係ある「鳥取砂丘エリア国立公園利用拠点計画」の方針を踏まえ、砂丘東西の整備の方向性を以下のように定めます。

- ① 東側ではその中心部に位置する鳥取砂丘ビジターセンターを主要拠点とします。
- ② 西側ではリゾートホテルとサイクリングターミナルの2か所を主要拠点とします。
- ③ 砂丘東西で3つのゾーンを設定し、それぞれのゾーンの来訪者ターゲットを想定しながら、ゾーンごとの整備コンセプトや機能配置を検討します。

4 砂丘西側の整備コンセプト

3で示した3つの利用拠点ゾーンに沿って、ここでは西側エリアの2つの利用拠点ゾーンに関する整備コンセプトを次の通りまとめます。

(1) 浜坂側利用拠点ゾーンの整備コンセプト

このゾーンは、西側ワーキンググループによるゾーニングの中で、「遊びゾーン」として位置付けられた場所が中心となり、「学びゾーン」が統合されます。砂丘中央部へのアクセスも容易で、教育や福祉目的の地元利用が定着しています。また鳥取大学の乾燥地研究センターも近隣にあり、近代以降の文学歌碑も多く設置されています。これらの地域資源を生かした質の高い自然体験・スポーツ体験などの魅力あるコンテンツの開発や、本物の砂丘を五感で体験できる滞在・歩行環境の整備が重視されます。



近代以降の文学歌碑

したがって、本ゾーンの整備コンセプトを以下の通り設定します。

- ① 学びと遊びの場を両立させた、子どもたちにとっても安全で機能的な環境を整備
- ② 砂丘地や自転車レーンを利用できるレクリエーションやガイドツアーの拠点を整備
- ③ 自然だけでなく歴史文化も楽しめる場所づくり

(2) 多鯨ヶ池側利用拠点ゾーンの整備コンセプト



高低差を生かした快適な眺望

このゾーンは、西側ワーキンググループによるゾーニングの中で、「泊り（見晴らし）ゾーン」として位置付けられた場所が中心となり、「遊びゾーン」の一部が統合されます。

このゾーンでは市有地へのリゾートホテル誘致が予定されており、新たな滞在型の観光スタイルが期待できます。

しかし、市道を挟んだ砂丘地への立ち入りはスムーズではなく、既存のゴルフ場や神社を含めて高低差が激しいことから、砂丘との直接的な接続や自然体験よりもむしろ高低差を生かした快適な眺望と居心地を前提に、歩行や食事を含めた滞在環境を整えることが重視されることから、本ゾーンに次のコンセプトを設定します。

- ① 砂丘本来の自然・風景（夕日、星空、雪景色等）を眺望によって堪能できる空間
- ② スマートで落ち着いた環境の中で、自然と向き合う特別な時間が得られる場所
- ③ 滞在型のゆったりした空間と安心できる歩行環境

第3節 砂丘西側の来訪ターゲットと機能の配置

1 砂丘西側の来訪ターゲットの設定

現在の砂丘西側は、東側に比べ来訪者は少ないものの、小規模で多様な次の来訪者に利用されています。

- ① サイクリングターミナルや民営国民宿舎などの宿泊利用者
- ② 無料の柳茶屋キャンプ場を利用するアウトドア志向者
- ③ 地元の幼稚園や小学生の児童
- ④ パラグライダーなどのアウトドアスポーツの利用者
- ⑤ 神社への参拝客
- ⑥ こどもの国が集客する年少児童・幼児を連れたファミリーなど



地元の幼稚園児童の利用

しかし、リゾートホテル誘致により、今後、これまでの利用者像とは全く異なる来訪ターゲットも想定されます。このため、砂丘西側では将来の来訪ターゲットについて、現状の利用者像を評価しつつ、次の2点を選択的に設定します。

- ① 砂丘本来の自然・風景・歴史文化の魅力が体感できる滞在を志向する人々（従来からの団体観光客ではなく主に国内および海外からの個人客・ファミリー客・グループ客など）
- ② 充実し安全で落ち着いた滞在およびリピート来訪を志向する人々（主に従来からの地元鳥取市やその周辺の、年少児童・幼児を連れたファミリー層など）

2 各ゾーンの機能配置



サイクリングターミナル砂丘の家

(1) 浜坂側利用拠点ゾーン

歩行者動線の確保を前提として、現在のサイクリングターミナルは、利用拠点としての最有力候補となります。サイクリングターミナルには、砂丘西側全体の総合案内・情報提供機能を第一に確保し、本ゾーンでの人の動きを一旦ここで引き留めたうえで、来訪者のニーズに対応するゾーン内の各種施設やスポットへ誘導を行う役割も期待できます。このため、サイクリングターミナルの建物に、民間活力の導入も見据えて、次の機能配置を検討します。

- ① 総合案内機能（ツーリストインフォメーション・砂丘ガイドツアーデスクなど）
- ② 飲食提供機能（レストラン・カフェなど）
- ③ ストレージ機能（荷物預かり所・コインロッカーなど）
- ④ リフレッシュ機能（シャワー設備・着替えスペース・トイレ・乳幼児対応設備など）
- ⑤ 情報交流機能（中規模ミーティングルーム・ゲストハウス・シェアオフィスなど）

これらを実現するには、現在のサイクリングターミナルが担っている社会教育施設としての役割と今後のあり方の検討を要するため、各関係機関と協議を図りながら進めます。

一方、現在の県休憩舎の隣接地に新設し、県休憩舎と一つの施設として運営される西側ビジターセンターについては、サイクリングターミナルとの機能分担の観点から、次の機能を踏まえて施設整備を検討します。

- ① 自然文化解説機能（砂丘ガイドツアー実施に伴う支援・文化歴史分野に重点をおく展示ギャラリーなど）
- ② 環境教育支援機能（小規模ミーティングルームなど）
- ③ 野外活動支援機能（トイレ・多目的利用対応設備・外構部の足洗い場など）

またサイクリングターミナルに隣接する柳茶屋キャンプ場については、グランピング場などへの転換による有料化なども今後検討します。

（２）多鯰ヶ池側利用拠点ゾーン

西側市有地に誘致する民間リゾートホテルが、現在の砂丘西側に無い新たな機能を担うことが重要です。宿泊や魅力的な食事、コンベンションやバンケット機能はもちろん、砂丘西側の美しい眺望を活かしたリゾートホテルならではの新たな機能が、砂丘全体のステータスを高め、鳥取砂丘に新たな来訪者を招くことにつながります。



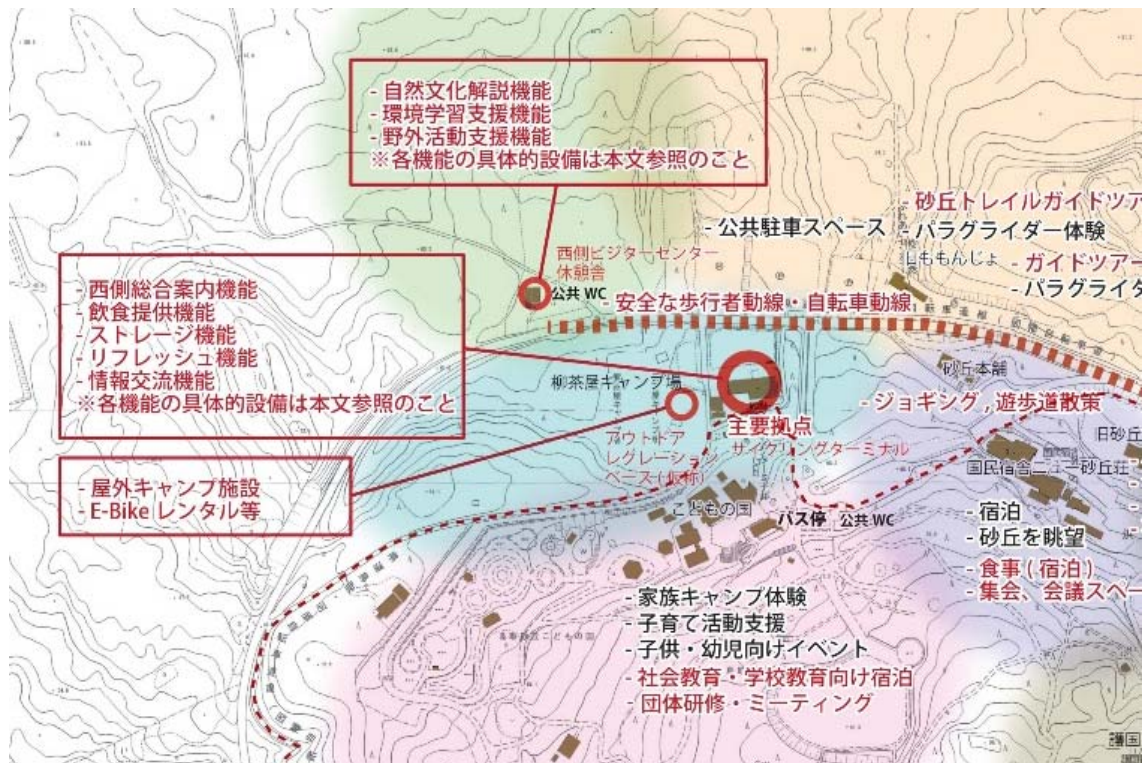
多鯰ヶ池（砂丘西側を展望）

また、民間の既存施設の修景・機能更新や駐車スペース、利用拠点と接続する多鯰ヶ池とその周囲の自然環境を楽しめる空間づくりも重要です。

上記の各ゾーンの機能配置は、ハード面だけでなく、来訪者のマナー向上といったソフト面での対応も併せて行う必要があります。特に、今後、増加が見込まれる外国人旅行者への受入態勢として、統一感のある多言語案内看板やWi-Fi環境の整備などは必須です。

また、外国人旅行者の増加による影響についても総合的に検証し、あらかじめ対策を講じていくことが重要です。

浜坂側利用拠点ゾーン



機能配置図 (黒字は現在の利用状況、赤字は今後求められる機能)



将来イメージ図 (サイクリングターミナル砂丘の家周辺)

多鯨ヶ池側利用拠点ゾーン



機能配置図 (黒字は現在の利用状況、赤字は今後求められる機能)



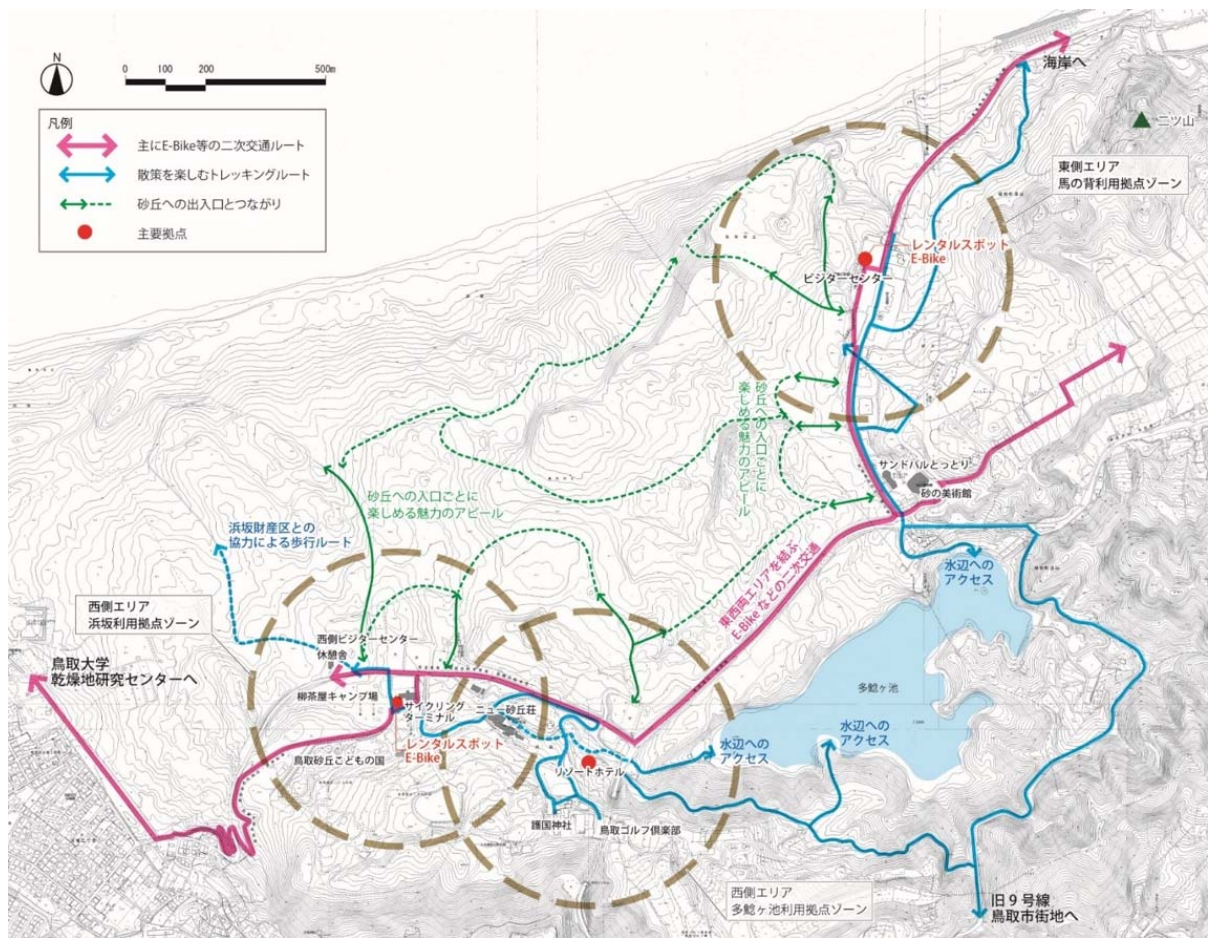
将来イメージ図 (リゾートホテル周辺)

第4節 砂丘全体の周遊性の向上

将来的に砂丘全体を一体感を持って活性化することが大切であり、東西それぞれの魅力や整備の効果が、利用者の相互移動や交流により波及していく仕組みを確保することが求められます。

このためには、砂丘へのアクセス性を今以上に高めると同時に、砂丘の東西を結ぶ二次交通手段を用意し、また徒歩を含めた快適な移動環境を整備することが必要です。そのような整備が進めば、砂丘中央部や多鯨ヶ池周辺の自然環境を徒歩で横断して砂丘の東西を周遊するガイドツアーや散策などの需要も新たに掘り起こすことができると期待されます。

次の図は、砂丘の東西を周遊する移動手段として徒歩・ジョギングとレンタル E-Bike、あるいは各種のレンタル EV モビリティ(ミニ電気自動車、電動キックボード、電動二輪車など)、タイのトゥクトゥクに代表される三輪タクシー等の将来の導入も想定し、東西エリアが接続する周遊ルートのイメージを示すものです。



東西エリアをつなぐ動線図

砂丘全体の周遊性向上と併せて、砂丘東西の各拠点施設の上質化を行うことで次のような砂丘の将来イメージが想定されます。

主な砂丘西側の道路沿い

- ① 安全で快適な自転車歩行者道の整備
- ② 植栽の整理による修景と見通しの確保
- ③ パーゴラ・ベンチなど目標地点となりくつろぐことができる空間
- ④ 誘導サインの整備



将来イメージ（砂丘西側の道路沿い）



将来イメージ（砂丘東側の道路沿い）

主な砂丘東側の道路沿い

- ① 外壁や屋根の色彩統一
- ② 室外機等の建築屋外設備の修景
- ③ 歩行空間の高質化
- ④ 軒先の利用による賑わいの創出
- ⑤ 事業広告の色彩統一
- ⑥ 砂丘東側で統一されたシェードの設置

主な砂丘東側の店舗

- ① 砂丘東側で連続性のあるデッキテラス
- ② 各店舗のトイレ洋式化
- ③ W i - F i 環境の整備

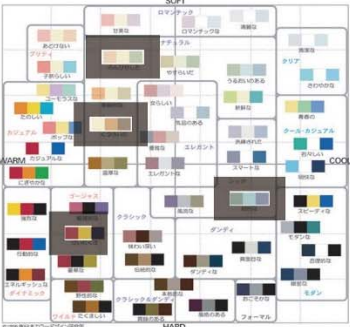



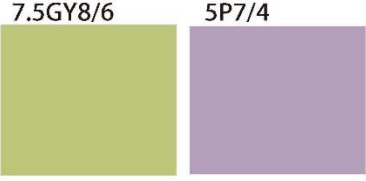




将来イメージ（砂丘東側の店舗）

第5節 砂丘西側の色彩イメージ

砂丘西側を上質化し、今後、自然や文化をゆっくりと楽しむ場所となることを目指す場合、次のような「スマートで、スローで、親密な雰囲気」が感じられる落ち着いた色彩設定が必要です。

このため、砂丘西側の建物や工作物には、次の色彩設定を、山陰海岸国立公園管理計画との整合を図りながら、今後、導入することを検討します。

| | | | |
|---|--|--|----------------------|
|  <p>keyword: スマート スロー 親密</p> <p>10YR6/1</p> <p>公共工作物 グレーベージュ</p> <p>イベント・広告用の アクセント色イメージ</p> | <p>基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> - 自然環境の事物との近接 - 東側よりも柔らかい印象 | <p>BASIC COLORS</p> <p>10YR4/1 7.5YR6/3</p>  | <p>建築上層</p> |
| | <p>- 色相対比と彩度差の 2つの方法により 建築の壁面の中での コントラストを強調</p> | <p>5Y8/3 10R6/4</p>  | <p>アクセント</p> |
| | <p>- 建築上層部と色相を揃え 東側よりも彩度を低めて 抑制の効いた印象を生む</p> | <p>10YR6.5/2 7.5YR8/1</p>  | <p>建築下層</p> |
| | <p>- イメージカラーや サインカラーの 規定を考案し共有すべき</p> | <p>7.5GY8/6 5P7/4</p>  | <p>広告物</p> |
| | <p>- 建築下層よりも明度を下げ 彩度をやや高める - 明度の高めの明るい広告 などの色を浮き立たせつ つ落ち着いた印象を守る</p> | <p>5Y5/2 10YR6/4</p>  | <p>デッキテラス</p> |
| <p>上記のマンセル系色表記は 日本塗料工業会標準色見本 に従っており、印刷メディア に使用する場合は、相当する 印刷色に変換することを想定</p> | <p>- 建築下層と同色相で 明度を低くすることで 安定感を印象付ける</p> | <p>7.5YR6/1.5</p>  | <p>ペイプメント</p> |

結

改訂前の本構想が策定される直前の 2003 年には、政府による「観光立国行動計画」が策定、また国土交通省を中心とした「美しい国づくり政策大綱」が閣議決定、続く 2004 年 6 月に「景観法」、2006 年 12 月に「観光立国推進基本法」、2007 年 6 月に「エコツーリズム推進法」、2008 年 5 月に「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）」が矢継ぎ早に制定されるなど、その時期は、わが国における観光および景観に関わる政策が大きく転換、発展してゆく時期とも重なります。当時は平成の市町村合併が進行中であり、またインフラ整備の面においても、鳥取自動車道の供用、山陰自動車道の部分開通はこの後 6 年以上を待たねばならず、鳥取砂丘への自動車交通によるアクセスは利便性が低い状態でした。

今日、わが国の観光動向は劇的に変化しています。2004 年に 600 万人強であった訪日外国人旅行者数は、2018 年には 3000 万人を大きく上回り、観光の国際化、特にアジア地域との強い結びつきが、鳥取砂丘においても外国人旅行者に対する本格的な対応を求めています。

また、国内観光は、かつてのような旅行代理店を経由した団体旅行中心のマスツーリズムではなく、インターネットによる検索と予約システムを基盤とする自由な個人旅行が大きな比重を占めるに至り、そのツーリズムスタイル・価値観も多岐に及んでいます。

しかし、外国人旅行者の増加は、地域経済を活性化する一方で、オーバーツーリズム（観光公害）と呼ばれる新たな社会問題も引き起こしています。さらに、日韓関係の悪化や新型コロナウイルスの流行などにも地域経済は大きく左右され、観光を取り巻く社会情勢は、年々、複雑化しています。

このような社会情勢や観光客の消費志向の変化にも対応し、5 年後、10 年後を見据えた鳥取砂丘の観光的価値を高めゆく取り組みと覚悟が迫られる中、鳥取砂丘未来会議で、1 年間にわたり調査と議論が行なわれ、本構想の改訂が完了出来ましたことに感謝を申し上げます。

また、本構想の改訂にご協力いただいた株式会社エスティ環境設計研究所 澁江章子氏、トレイルボックス 仲間浩一氏にお礼を申し上げます。

鳥取市観光・ジオパーク推進課

鳥取砂丘未来会議西側ワーキンググループ構成メンバー（団体）

敬称略

| 区 分 | 所 属 団 体 | | 氏 名 |
|--------|--------------------------------|--------|--------|
| | 団 体 名 | 役 職 | |
| 活動団体 | 鳥取大砂丘観光協会 | 会長 | 松永 泉 |
| | （一財）自然公園財団鳥取支部 | 所長 | 堀田 利明 |
| | 鳥取砂丘アクティビティ協会 | 会長 | 片岡 義夫 |
| | 山陰海岸国立公園鳥取砂丘ビジターセンター管理運営協議会 | 館長 | 漆原 利明 |
| | NPO法人とっとり観光ガイドセンター | 理事長 | 山根 奈津子 |
| | 砂のルネサンス実行委員会 | 委員長 | 田淵 裕章 |
| | Tottori Mama's | 代表 | 中井 みずほ |
| | 砂丘 YOGA | 代表 | 石谷 依利子 |
| 広域観光団体 | （一社）鳥取市観光コンベンション協会 | 会長 | 林 由紀子 |
| | （一社）麒麟のまち観光局 | 事務局長 | 石塚 康裕 |
| | （公社）鳥取県観光連盟 | 誘致事業課長 | 岡崎 充男 |
| | （一社）日本旅行業協会中四国支部 | 支店長 | 富岡 哲也 |
| 広域経済団体 | 鳥取商工会議所 | 事務局長 | 林 浩志 ◎ |
| | 鳥取県東部商工会産業支援センター | 所長 | 岩本 敬二 |
| 地 権 者 | 濱坂財産管理委員会 | 委員長 | 田中 俊彦 |
| 大学関係 | 国立大学法人鳥取大学 | 教授 | 永松 大 |
| 行政関係 | 環境省近畿地方環境事務所 | 所長 | 河本 晃利 |
| 関連施設関係 | 国立大学法人鳥取大学乾燥地研究センター | センター長 | 山中 典和 |
| | 鳥取市生涯学習・スポーツ課（サイクリングターミナル砂丘の家） | 次長 | 神谷 康弘 |
| | 鳥取砂丘こどもの国 | 園長 | 堀場 明子 |
| 事 務 局 | 鳥取県観光交流局観光戦略課 | 課長 | 岩下 久展 |
| | 鳥取市教育委員会事務局文化財課 | 課長 | 富田 恵子 |
| | 鳥取県生活環境部緑豊かな自然課（休憩舎） | 課長 | 池内 富久 |
| | 鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課（柳茶屋キャンプ場） | 課長 | 山根 康子郎 |

座長 ◎

鳥取砂丘未来会議上質化ワーキンググループ構成メンバー（団体）

敬称略

| 区 分 | 所 属 団 体 | | 氏 名 |
|--------|--------------------------------|-------|--------|
| | 団 体 名 | 役 職 | |
| 砂丘西側関係 | 株式会社砂丘会館（砂丘パレス） | 代表取締役 | 松永 泉 |
| | 鳥取県護国神社 | 宮司 | 戸坂 正慈 |
| | 株式会社玉川（鳥取ゴルフ倶楽部） | 代表取締役 | 玉川 政一 |
| | 鳥取市生涯学習・スポーツ課（サイクリングターミナル砂丘の家） | 次長 | 神谷 康弘 |
| | 鳥取県子育て王国課（鳥取砂丘こどもの国） | 課長 | 稲村 潤一 |
| | 濱坂財産管理委員会 | 委員長 | 田中 俊彦 |
| 砂丘東側関係 | 鳥取大砂丘観光協会 | 会長 | 山根 弘司 |
| 経済団体関係 | 鳥取商工会議所 | 事務局長 | 林 浩志 ◎ |
| 行政関係 | 環境省近畿地方環境事務所国立公園課 | 課長 | 玉谷 雄大 |

| | | | |
|-------|-------------------------------|----|--------|
| 事 務 局 | 鳥取県生活環境部緑豊かな自然課（休憩舎） | 課長 | 池内 富久 |
| | 鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課（柳茶屋キャンプ場） | 課長 | 山根 康子郎 |

座長 ◎